

農村計画学

2016年10月5日の出席票より

2016年9月28日について

- シラバスを読んでいた & 来た 17(*)
- シラバスを読んでいた & 来なかった 9
- シラバスを読んでいた & 記入なし 3
- 読んでなかった & 来た 7
- 読んでなかった & 来なかった 4
- 記入なし

(*) ガイダンスのようなものがあったらと思った。(1名)

講義内容への質問(1)

- 国ごとに違う都市人口率の定義を統一する動きはあるか？ →あるからこそ、何か国かで変更がなされています。どの国の定義が「正しい」のでしょうか？
- 農村の出生率の改善は難しいのでは？ →農村の出生率が(相対的に)低いという前提ですか？
- コメの単位収量が急増した理由は？ →(簡単に説明したとおり)灌漑、化学肥料、品種改良、造成・整備の機械化、等です。
- 農業集落の農家率は、どのくらいが理想か？
- 農家率が低い農村の経済のなりたちは？ →考えてみましょう。
- 散居集落の住民は、交流が不足するのでは？ →交流の方法は違うでしょうね。
- 棚田の傾斜1/20以上とそれ以下での違いは？ →農作業の困難性が異なり、支援のレベルが違います。

講義内容への質問(2)

- 都市部と農村部で、土地利用を所管する法律が別れていることについて、どう考えますか。
- 農振地域はどこを所管ですか？
- 日本の土地利用計画を主導しているのはどの役所ですか？
- 農振地域では、どのような土地利用規制をするのか？
- 土地利用計画の5地域が重なっている場合の調整は？優先順位は？
→上記は概ね第2回での講義内容です。
- 農振地域と市街化区域が重複するという混乱があると聞いた。→それは間違いです。重複はしません。
- 各土地利用の割合は、どのくらいが理想か？ →考えてみましょう。
- 現在の土地利用計画は、農地と市街地を一体的に捉えているのか？ →調整はします。「一体的」とは言えないかも。

講義内容への質問(3)

- 理想論を語る「地方創生」に違和感を感じている。
- 林直樹「撤退の農村計画」にどの程度賛成ですか？ →考え方には賛成です。
- 撤退後の土地利用はどうなるのか？
- 様々な社会サービスが行き届いていない集落に、どのように行き渡らせるのか？ →各自治体が計画し、各省庁等の補助金等を得て、生活環境整備事業が行われます。
- 人口減少の農村地域にきわめて歴史的な建物が残っている場合、その農村は撤退する必要はないのでは。 →もちろんです。
- 都市の縮小に関して、空閑地を農地や緑地として保全することは可能か？
- 既に市街化された土地が農地になる事例などがあれば知りたい。
- ある土地を農地にするかどうかは誰が決めているのか？ →土地「利用」を決めるのは所有者です。農地である「べき」かどうかは、土地利用「計画」で決めます。

講義内容への質問(4)

- 農村計画の課題・問題点は何か？ →農村地域・農村空間を豊かで快適なところにする。 (それが達成されれば農村計画は不要になりますが、そう簡単ではありません。)

講義方法への希望、コメント

- 特になし。
- 事例に多く触れてほしい。
- おもしろかった。
- 農村と都市とが際立って見えて良かった。
- スライドの重要部分は配布してほしい。
- スライドの公開は助かる。
- スライドを「事前に」載せてほしい。 →そうします。
- 講義資料の掲載場所は、ITC-LMSでしょうか？
- 都会に住んでいるので、興味深い。
- このままでよい。
- 授業の主な意図が掴めません。
- 「都市農村計画学」とリンクしながら学びたい。
- 都市との比較に興味がある。
- 板書したときは、電気を点けてほしい。 →そうします。
- マイクなしでもよく聞こえた。
- 「レ・ミゼラブル」を見ようかと思った。
- 外国の農業との共通点や特徴にも触れてほしい。 →予定しています。